苫小牧市民ホール基本構想

苫小牧市が2024年度にオープンを予定している新複合施設「市民ホール（仮称）」。構想などの検討を始めて３年目に入り、今年度中に施設機能や規模、建設場所を盛り込んだ基本計画が完成する。有識者や公募の市民による検討委員会では施設の幅広い利活用を目指しさまざまな利用方法を考え出しており、その内容の一部や、市市民ホール建設準備室の用田史門（もちだ・ふみかど）室長に聞いた「目指す施設の構想」「時間をかけて検討する狙い」について伝える。

用田　史門室長に聞く

市民ホール構想について説明する用田室長

新発想で居心地いい施設

市民ホール構想は老朽化した市民会館と周辺の用途の似た施設を集約化し、各機能の相乗効果を図って新しい複合施設を生み出すのが狙い。市民会館の建て替えイコール、市民ホールではありません。

15年度に基本構想をまとめました。16年度から基本計画の策定作業に入り、17年度中に完成させる予定です。新施設はコンサートなどを行うホール機能を「主」、他の部屋を「従」とする、といったことに縛られず、新しい発想を大切にしながらいろんな意見を聞き、時間をかけてどんな施設にするかを考えています。

施設のハード面から入ると発想が固定化される心配があるので、まず基本構想で施設の理念を示しました。基本計画ではそれを具現化するため、市内で文化活動をする市民らが参加するワーキンググループをつくり、「どんな利用が望まれるか」を1年かけて検討しました。63のアイデアが生まれ、特に目的がなくても立ち寄りたくなるアイデアも考えました。

多額の税金で造る施設なので、文化や芸術の愛好者だけでなく、すべての人に開かれた施設を目指す責任があります。また、"使う"イメージがあると今後、機能性などを考慮した設計業務にも役立てられます。

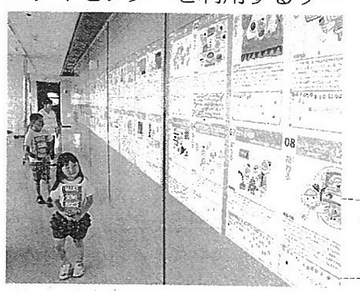
20年、30年先がどうなるのかは正直、分からないところもあります。ただ、いつの時代も楽しい場所には、人が集まるはず。何かしら居心地がいいと思われる施設を目指したい。使うのは市民なので、検討段階から市民ホールにもっと関心を持ってもらう努力をしていきたいと思っています。

市役所でパネル展――28日まで

苫小牧市は28日まで、市役所内で市民ホールの利用アイデアや基本構想を紹介するパネル展「新しい市民ホールで何をしよう―みんなで考える未来の憩いの広場」を開いている。

14日までは12階、18～28日は２階が会場。市民会館の建て替えに伴い、周辺公共施設と統合して建設する市民ホール機能の基本的な考え方、施設活用に関するアイデアなどをパネルで紹介している。

アイデアは「合宿など夜も施設を使える日を作り、新たな交流や活動を作る」「市内のコミュニティセンターを利用するサークルや団体の活動を評価するコンクールを行う」などさまざま。とまチョップのイラストで分かりやすく表現されている。



苫小牧市役所12階で開かれているパネル展

市民ホールをめぐっては、15年度に公募の市民や北海道大学、イベント会社、舞台技術者などによる検討委員会、16年度には文化、芸術活動をする市民を中心にしたワーキンググループを設け、各組織の議論を通じて、基本構想や利用アイデアなどを形にしてきた。

幅広い利用方法検討

市民ホールの検討委員会が生み出した利用方法のアイデアは、「育てる」「集う」「関わる」など五つの視点による63種類。この中から主な10種類を紹介する。

アイデア10種類紹介

【育てる】

ソロデビューへの道

さまざまな趣味に関するメニューをそろえ、それぞれのテストに合格するとホール演奏や展示会を開けるプログラム。趣味から本格的な活動への飛躍を後押しする。

とまこまいキッズ基金

小中学生対象に練習の場としてホールを無料で貸したり、苫小牧出身で活躍する先輩の講座を開設し、小さい頃から文化、芸術に触れられるように地域ぐるみで応援する。

【集う】

週末マルシェｄｅライブ

施設周辺の広場などで開き、市民が気軽に集える無料イベント。例えば、農水産物のマルシェとライブを合同開催するなど、多世代が楽しめる空間の創出を目指す。

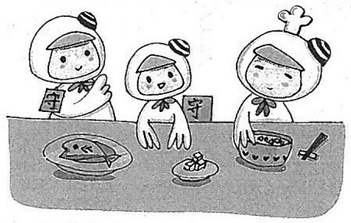
子どものわくわく社会見学

子ども対象の職業体験イベント。親子で遊べる施設が少ない現状を踏まえ、子どもや子連れの家族が訪れやすい施設づくりを目指して考えられた試み。

【知る】

苫小牧の味を守る会

苫小牧に残る郷土料理を市民みんなで作り、楽しみながら伝えていく市民団体を設立。地域で愛されるソウルフードの取材に始まり、大小さまざまな食の催事を手掛ける。



とまチョップ・アート＆カルチャーポイント

市の地域限定通貨「とまチョップポイント事業」と連携し、公演やイベントの参加をはじめ、インターネット上での情報発信への協力にもポイントを付けるサービス。

【関わる】

手作り食堂ｉｎ市民プラン

日替わりで食堂を運営する。例えば、地域の人たちが日替わりで調理スタッフとなり、子どもらも手伝いで参加し、地域のコミュニケーションの活発化に生かす。

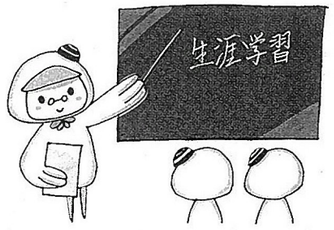
チャレンジショップｉｎ市民プラザ

店を開きたい人に期間限定で店を出す場所を安く貸し、挑戦する機会を提供する企画。毎月、お店と内容が変わるため、来店者も飽きずに楽しむことができそう。

【つなぐ】

大人のいきいきカレッジ

人生の大先輩となる高齢者との世代間交流を目的とした、学びを楽しむイベント。市長生大学で活躍する高齢者を講師に迎え、セミナーや勉強会を開く。



施設コンシェルジュ

施設利用で予約が重なった時、市内の他施設にある部屋やその他のサービスを紹介する予約専門のスタッフを配置。市内の公共施設全体を今より有効活用できるようにする。